

第5学年 道徳科学習指導案

平成28年10月28日(金)

指導者 山内優志

場所 5年教室

1 主題名 思いやりの心 B 親切, 思いやり

2 ねらい 相手の立場に立って考えると, 励ましや援助だけではない多様な思いやりがあることに気づき, 実践しようとする態度を育てる。

3 教材 「台湾からの転入生」 ～「みんなのどうとく 5年」(学研)～

4 主題設定の理由

① ねらいとする道徳的価値

私たちがよりよい社会生活を送るためには, 相手を思いやり, その立場に立って考えることが求められる。思いやりとは, 相手の気持ちや立場を自分のことに置き換えて推し量り, 相手に対して良かれと思う気持ちを向けることである。そのためには, 相手の存在を受け入れ, 相手のよさを見いだそうとする姿勢が求められる。具体的には, 相手の立場を考えたり, 相手の気持ちを想像したりすることを通して, 励ましや援助をすることである。また, 単に手を差し伸べるだけでなく, 時には相手のことを考えて温かく見守ることも親切な行為としての表れである。高学年の段階においては, 自他を客観的に捉えることができるようになり, 相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像できるようになる。指導に当たっては, 特に相手の立場に立つことを強調する必要がある。自分自身が相手に対してどのように接し, 対処することが相手のためになるのかをよく考えた言動が求められる。そこで, 本教材では, 相手の立場に立つとはどういうことかを十分に考えさせ, それを人間関係の深さに関わらず行おうとする実践的な態度を育みたい。

② ねらいにかかわる児童の実態

…<個人情報保護のため省略>…

③ 指導にあたって

台湾からきた転入生ケイが言葉の壁や文化の違いに苦しみ、ある日突然学校へ登校できなくなる。担任に託した手紙から、たどたどしい日本語を笑わないでほしい、みんなと同じように話せるようになりたいというケイの願いに5年生は初めて気づくことになる。5年生それぞれが自分の接し方を反省し、言葉にし始めるが、担任の先生の「それだけでいいのかな」の問いかけに、主人公のみどりは、「はっ」とする。

本教材は、ケイさんのことを考えることで、相手の立場に立って考えることの大切さを考えさせる内容である。友達と一緒に生活していく中で、助け合うことの意味や思いやりの価値を考える機会が生まれる。身近な学級の一問題として捉えさせたい教材である。

本時は、思いやりについての価値理解を深めていく学習である。相手の気持ちを考える時に、相手の立場に立って考えることも大切であることを知り、それを実感し、今後の実践意欲につなげることができる1時間にしたい。初めに、P23の2行目まで読み、どうしてみどりさん達は「本当に優しくしたい」や「話している言葉を笑わない」と言ったのかを考えさせ、ケイさんの気持ちを考えた行動であることをおさえる。また、他にどんな行動ができるかを考えさせる。ここでは、児童にとってより身近な、相手に直接何か行動する内容の意見が出ると予想する。そして、「先生の言葉にみどりさんがはっとしたのはどう思ったからだろう。」と問うことで、ケイさんのことを深く考えていないことに気づき、何が足りていないかを考えさせたい。中心発問では、相手の立場に立つことも大切であり、思いやりとは相手に特別に何か行動することだけではなく、自分の態度などによっても相手を思いやることができることを感じ取らせたい。

本時のねらいにせまるため、以下のような手立てを考えた。

具体仮説ア 本時の主題に関わる問題意識をもたせる導入

導入で、最近感じた「思いやり」について問うことで、主題に対してのイメージをもたせるようにしたい。また、ペアで交流したり、発表を聞いたりすることで、多様な意見にふれさせ、多面的にとらえられるようにしたい。

具体仮説イ 話し合いが広がり、深まるような発問や話し合いの工夫

児童それぞれが主体的に考えるように、まず、P23の2行目まで読み、教材文中で先生が学級みんなに問いかける「みんなはケイさんが登校したらどうしたいですか。」をそのまま本学級の児童に発問することで、教材文中の学級みんなと同じように、自分の問題として考えさせたい。話し合いでは、「～すべき」や「～した方がいい」という行動面の意見が出ると予想するが、その行動の裏にある思いやどうしてそう思うのかを聞き、価値について深めていきたい。

具体仮説ウ 児童の価値理解の変容が分かるような板書の工夫

黒板を上下2段に分け、「学級の子どもの言葉」、「先生の言葉」を板書することで、視覚的に分かりやすくし、中心発問の時に比較しやすいようにしたい。「思いやり」について価値が深まった発言に対しては、黄チョークで板書することにより、学習を通して児童の価値理解が変容したり深まったりしたことが実感できるような板書にしたい。

具体仮説エ 自分の思いや考えを見つめるための道徳ノートの工夫

終末で、道徳ノートに学習を通して考えたことを書く時間を設定する。少し時間をとった後で、児童数人に発表させる。そうすることで、書き悩んでいる児童も、自分のことをふり返って書けるようにさせたい。

5 本時の学習

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導者の支援及び留意点
気づく	1. 「思いやり」について考える。	○最近、友だちにしてもらってうれしかったことある？（ペアで交流） ○どうすることが「思いやり」？ ・相手に優しくすること ・親切にすること	
深める	2. 教材をP23の2行目まで読み、話し合う。 残り全て読み、話し合う。	○ケイさんが登校したらどうしたい？ ・あやまる。 ・勉強を教えてあげたい。 ・遊びに誘ってあげたい。 ○先生の言葉にみどりさんがはっとしたのはどう思ったからだろう。 ・ケイさんのことを深く考えていなかった。 ・あやまってほしいわけではない。 ・自分には何ができるのだろう。 ◎みどりさんたちの言葉と先生の言葉は、どちらがうのかな。 ・先生の言葉は、一緒に頑張ろうという感じ。 ・子どもの言葉は、ケイさんに直接優しくしているけど、先生の言葉は、自分の態度を考え直している。 ○もし自分がみどりさんのクラスにいたら、どんなことができる？ ・一生懸命勉強して、ケイさんの見本になる。 ・スリッパをきっちりそろえ、日本の文化を伝える。	自分ならどうするかを考えることで、自分のこととして考えさせる。 行動だけでなく、行動の裏にある思いを聞く。 どうしてそう思うのか、理由も含めて考えさせる。 児童にとっては、より身近な「直接、相手に対して何か特別な行動をとること」以外にも、「自分の態度」でも思いやりを伝えられることをおさえる。
見つめる	3. 自分の生活を振り返る。	○思いやりについて、自分のことをふり返ろう。	自分の考えを文章にしてまとめ、数人だけ発表する。その発表を聞いて考えたことを再度まとめる。

○本時の評価（期待する学びの姿）

相手の立場に立って考えると、励ましや援助だけでない多様な思いやりがあることに気づき、実践しようとする気持ちをもっている。

（発言、ノート）